

## 「今を大切に」

新潟食料農業大学 学長

ゆたか  
**中井 裕 氏(高校24期)**

八王子市生まれ、保谷市(現西東京市)育ち、立高1972年卒業  
東北大学農学部畜産学科卒業、博士課程修了(農学博士)  
茨城大学農学部助手、米国ジョージタウン大学医歯学部博士研究員、同大学助教授  
東京農工大学大学院農学研究科助教授(併任)、  
東北大学農学部助教授、農学研究科教授、附属複合生態フィールドセンター長、  
副研究科長、先端農学研究センター長、東北復興農業センター副センター長、  
東北大学総長特別補佐(震災復興推進担当)を歴任  
2018年 東北大学名誉教授  
2018年 新潟食料農業大学 副学長・学部長・教授  
2024年4月より 新潟食料農業大学学長



### ■高校時代



立高の皆さん、こんにちは。

立高に入学したのは55年も前のことですが、自主自律の校風、生徒を一人の人間として接する先生方に触れて、急に大人になったように感じたことを昨日のことに思い出します。柔道部に入って練習に打ち込みながら(後にバドミントン部設立=初代OBです)友人宅で雀卓を囲み、時にはロードレーサーに乗ってサイクリングと、のびのびと暮らしていました。とはいえ、入学前の1月には東大安田講堂占拠事件があり、世の中は学生運動で騒がしく、立高の上を轟音を鳴らして飛ぶ輸送機の後部ハッチにパラシュートを背負った米兵が見えたり、日々ベトナム戦争を感じざるをえないある種の暗さが漂う日々でした。

そのような中10月20日に校舎はバリケード封鎖されました。この封鎖をどうするのか、そもそも封鎖の原因を作った世の中をどう考えるのかなど、クラスで真剣に討論しました。その中で傷つきながらも社会や自分自身に関して深く考えました。

今、人生を振り返ると、人は緩い坂を登るように成長するのではなく、変化のない日々の後に階段を上るように急に成長するものです。立高で揉まれながら、私は確実に一段上のステージに上ったと思います。

キャンパスにも情熱を燃やしました

### ■高校卒業後～現在

卒業後は「青年は荒野を目指す」とつぶやきながら、仙台の東北大学に進学しました。卒業論文研究で単細胞のコクシジウムという原虫に出会って研究の面白さにハマりました。この原虫を発育中の鶏卵中で増やすことに成功し、顕微鏡下で蠢く原虫を見た時の感動を今でも思い出します。後に環境浄化などの機能を持つ微生物も研究テーマに加え、寝ている間も研究のことを考えているような生活を送りました。

2014年から新潟食料農業大学の立ち上げに関わり、開学までの4年間、開学後の6年間を夢中で走り続けて今に至っています。日本初の食の生産・加工・流通・販売・食卓まで網羅する大学として10年前に描いた夢が、今、形になりつつあります。

### ■在校生へのメッセージ

立高生の皆さん、高校時代の3年間は人生の中では短いですが、自身の人格を形成する重要な時期です。今を大切に生きてください。

[https://nafu.ac.jp/faculty/foodindustry-teacher/yutaka\\_nakai.html](https://nafu.ac.jp/faculty/foodindustry-teacher/yutaka_nakai.html)

